

昨年10月1日、千葉県連盟内11地区委員会へアンケート調査をお願いした結果、短い調査期間にもかかわらず全地区委員会から災害教育・支援体制について熱く、且つ厳しいご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。ここにアンケート結果を集約いたしましたのでご報告いたします。なお、皆様からいただいた貴重なご意見を全て掲載できなかつたことをお詫びいたします。

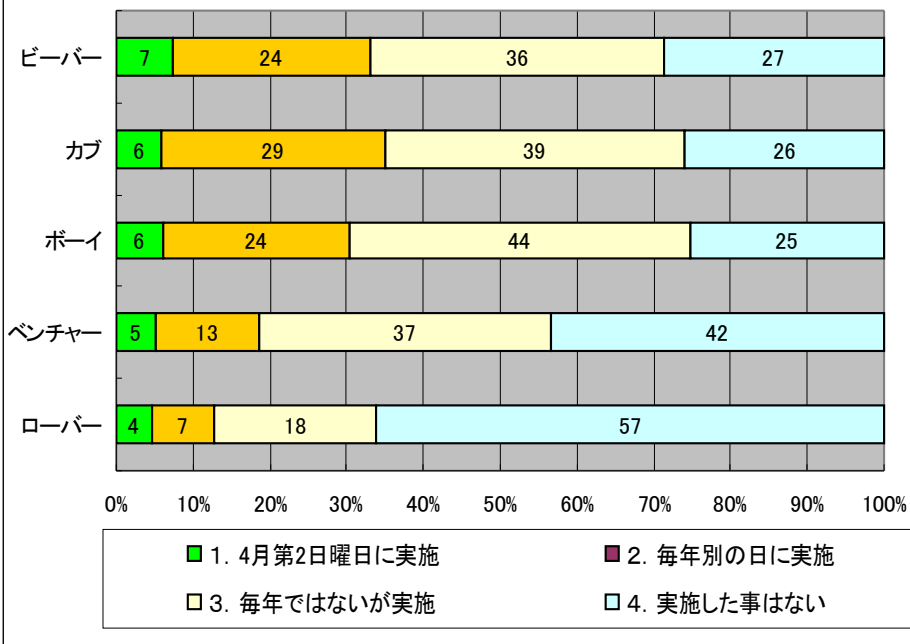
1. アンケート対象 千葉県連盟 11地区
2. アンケート調査期間 平成23年10月1日～11月30日
3. アンケート構成と回答数
 - (1)「災害教育」:実施状況及び理由・意見等⇒88件
 - (2)「災害支援」:設問(大項目4)及び意見等⇒184件
 - (3)「その他」:マニュアルの問題点等⇒59件※意見等回答合計数 331件

「災害教育」について

1. 災害準備プログラムの実施状況

千葉県連盟合計

	1. 4月第2日曜日に実施	2. 毎年別の日に実施	3. 毎年ではないが実施	4. 実施した事はない	地区隊数
ビーバー	7	24	36	27	88
カブ	6	29	39	26	93
ボーイ	6	24	44	26	93
ベンチャー	5	13	37	42	92



・災害準備プログラムの実施状況はビーバー隊69%、カブ隊72%、ボーイ隊72%と高く、災害教育の継続による100%の実施率が重要である。
 ・また、ベンチャー・ローバーは個人プログラムを主とする活動であるが約半数が実施している。

【記述式で88件のご意見をいただきました。】

1. 災害教育の必要性は認めるが、現状にあったマニュアルではない。[18件]
2. 各地区・隊がこれまで実施した具体例等[18件]
3. 各隊長はマニュアルを持っていない・理解していないなど。[16件]
4. マニュアルは必要なし。[15件]
5. 余裕がない、指導者不足で実施できない。[11件]
6. 県連盟に対する不満・意見[6件]
7. その他[4件]

コメント

災害時に備えるという観点から災害教育の必要性を認めているが、マニュアルは現実的ではないという意見とマニュアルは必要ないという意見が多い。
 災害教育はスカウトや指導者及び家族が「自分の身を守る」、「災害に備えた準備をする」上で大切な教育であり、スカウト活動の根幹でもあり、コミッショングループなど関係部署でのプログラムの確立が必要と考える。

「災害支援」について

2. 3月15日付「旭市飯岡地区災害復興支援プロジェクト」(3/19～21)の要請にあなたの地区はどのように対応しましたか。

	千葉	香東	印旛	船橋	八習	市浦	北総	東葛	松鎌	上総	南総
□要請通り災害支援要員のみ派遣した。	1●								▲		●
□災害支援要員にこだわらずに派遣した。	2●	●	●	3●	●					▲ (他市へ)	
□派遣しなかった。	8●			11●		●	●	●	●	▲ (他市へ)	

※数字は該当隊数

- ・マニュアルで指定している災害支援要員のみ派遣した地区は3地区。
- ・マニュアルにこだわらず派遣した地区は6地区。
- ・派遣しなかった地区は3地区。(地区内の中で何らかの形で派遣した団は8地区)

【旭市飯岡地区災害復興支援プロジェクト(3/19～21)の要請についての意見】

記述式で48件のご意見をいただきました。

1. 各団に要請したが希望者なし。(日程が合わない、仕事で都合が付かない…)
2. 当時の状況で燃料確保、電車の運行状況が不安定、支援要員へ連絡できないなど、派遣の意思はあったが間にあわなかった。
3. 自地区の被災で地元を優先させた。
4. 派遣要請が災害支援要員か、それ以外も派遣可能か判らなかつた。
5. 実際に活動できない支援要員にこだわるより、支援活動したいというスカウトの気持ちを尊重することがスカウト活動と捉える。
6. ボーイスカウトとしてまとまって現地に乗り込んでまとまって奉仕する領域が確保されるわけでもないのに、ボーイスカウトの動員力が活かせるのかどうかを良く検証した方がよい。
7. 早期に災害支援復興プロジェクトを立ち上げたことは素晴らしいことだったと思う。

コメント

今回の発災で県連盟からの要請に対し災害支援要員か一般かの判断が出来なかつたという意見は、マニュアルが現実的でなく、体制・情報収集・周知等のあり方に問題があつたといえることから、登録制の災害支援要員制度など災害支援体制そのものを見直す必要がある。

「災害支援」について

3. 日本連盟では石巻と福島に災害支援センターを設置しボランティアを受け入れましたがあなたの地区(団)からの派遣の形態は。

	千葉	香東	印旛	船橋	八習	市浦	北総	東葛	松鎌	上総	南総
□日本連盟の現地ボランティアに登録した	●2		●	●4	●		●		●		
□ボランティアの登録をしなかった				0				●		●	
□登録も派遣もしなかった	●3	●		●10		●		●			●
□個人として行った	●4		●	●4	●	●	●	●	●	●	
□団単位で行った	※ 1			●1		●					
□地区として行った	0			0							

※8月17日より宮古市の災害本部にVS隊がほうしに参加した。

※数字は該当隊数

- ・日本連盟の現地ボランティアに6地区が登録。
- ・登録・未登録を別にして、個人・団単位で被災地域へ9地区がボランティアとして奉仕している。

【日本連盟による災害支援センターへのボランティア募集に対する意見】

記述式で24件のご意見をいただきました。

1. 指導者への依頼であれば明確に、募集を区別する必要があると思います。
2. 単に登録すればという事ではなく、気持ちの上ではボランティアをしたい気持ちはだれでもある。故に、日本連盟への登録も個人の資格で被災地自治体等が設置するボランティアセンターに登録も柔軟出来るという事が大切。ただ、組織の上で把握することは大切だが、ボーイスカウト組織が主催者ではないと思うし、私達の本分を忘れてはいけないと考える。
3. 日本連盟にボランティア登録したが、日程調整が合わず、個人として奉仕した。
4. 現地への移動手段をボーイスカウトとして準備してボランティア活動を支援したことは良いことだと思います。

コメント

日本連盟は方針及びボランティア募集の発出が速やかで、特に交通手段を日本連盟で準備したことは良かったが、ボランティア登録者の日程が要求と合わず個人での参加になったことなど、被災地の災害ボランティアコーディネートの重要性が明らかになった。

「災害支援」について

4. 主に災害支援要員を対象とし、要員の招集・派遣訓練及び技能向を目的として災害準備大作戦(本年は中止)を開催してきましたが、効果があったか、無かったか。

	千葉	香東	印旛	船橋	八習	市浦	北総	東葛	松鎌	上総	南総
□効果があった	●7	●	●	●3	●	●		●	●	●	●
□効果はなかった	●1		●	●7	●	●	●	●	●	●	●

※数字は該当隊数

・効果の有無については両方とも評価された結果に見えるが、「効果があった」という意見は観念的で、効果がないという意見は殆ど厳しい評価である

【 災害準備大作戦に対する意見 】

記述式で71件のご意見をいただきました。

＜効果があった＞

- ・技能等の習得、維持に効果があった。
- ・災害支援の取り組みの必要性を喚起できた。
- ・スカウトに意識付けができた。

＜効果がない＞

- ・すべての災害準備大作戦に参加してはいないが、展示・見本市的な内容で、訓練・技能向上に沿っていたという印象は薄い。
- ・現実ばなれしている。(実際の災害地では役に立たないと思う。)
- ・大作戦などと名打ってもボーイスカウトのイベントの域を出れない。知識は増えるが、作戦の求める実態力、指揮力も不透明である。
- ・『効果があるか分からない』。なぜなら効果を試すような事例に出会っていない。旭市の泥かき作業は特段の技能を要しなかった。

＜意見＞

- ・現在は災害支援要員を組織として 選任し訓練すること自体が、周囲の状況と適合しなくなっている。また現時点ではその役割を終えたため、災害支援要員そのものを廃止し、これに伴い「災害準備大作戦」も廃止することが望ましい。
- ・専門(消防学校?等)の施設での体験や座学等が、より良いと思う、積極的に活用すべき。
- ・災害支援は、まず自分を守ること(自分が健全で、初めて)他の活動が可能、隊員が自分を守る方法が記載されていない。

コメント

意見にもあるが、「災害支援要員の選任・訓練が周囲の状況と適合しなくなっている。」ことが明確になり、且つ訓練が実際の被災地で求めていることと現実離れていることから、災害支援要員を対象とした「災害準備大作戦」は廃止の方向で検討し、「災害準備の日(4月第2日曜)」についても併せて検討する。

「災害支援」について

5. 災害支援について千葉県連盟に望むことは。

記述式で41件のご意見をいただきました。

- 体制**
- ・人数を制限しない
 - ・地区ごとの支援体制を作る
 - ・緊急時、人の命に関わる支援に対し”理事会の承認を得ていない”等とても信じられない。
 - ・今後の支援体制としては、各団が地域における防災体制と連携していくうえで、必要に応じ援助できる組織とすることで良いと考える。
 - ・技能的訓練も大切だが地区や県との連絡の方法について検討しておくことが必要。
 - ・県連盟によるバックアップ体制を考えてほしい。
- 制度**
- ・国レベルの災害には全体の枠組みの中でBSの位置づけが重要。
 - ・災害ボランティアコーディネーターを育成すべき。
 - ・新しいマニュアルを元に早急な対応を希望します。困っている仲間への支援が第一義なのか。公益財団法人としての支援が優先なのか、考えて方針を決め、対応して欲しい。
 - ・県内外の被災地区および被災地区の団に対する義援金募金活動や物資の寄付励ましの手紙など、千葉県連盟リーダー・スカウトからの善意を集める呼びかけを県連主導で行ってほしかった
 - ・今後の支援体制としては、各団が地域における防災体制と連携していくうえで、必要に応じ援助できる組織とすることで良いと考える。
- 行政**
- ・行政・ボランティアセンター等実際の活動内容を踏まえて、その中でBSが現実的に取組めるように整合を取ってほしい。
 - ・現地情報に基づく資材援助、資金援助が第一段階で、組織的な人的援助は第二段階と明確に位置づけて対応を考えて頂きたい。
(個人的な人的援助を否定するものではないが、受入先にボランティアセンターが設置されれば、人的援助できる方はボランティアセンター経由で現地入り可能なので)
 - ・普段より各地域の社会福祉協議会との連携を密にし、ホーイスカウトとしての奉仕策を把握し心の準備と訓練計画を進めるべき。
 - ・香取・東総地区への派遣者の感想として、県連盟単独の活動には無理が感じられた。行政や他の支援団体との連携が必要であると考える。まず行政との連携が、第一と考える。
- 教育**
- ・各隊の災害時の役割と出来ることを明確にし、活動の目指すところを示してほしい

コメント

・被災地への支援は個人・団体・企業の誰もが、「困っている人・地域」へのボランティア活動を自らの意思で行うものであり、奉仕活動を支援する仕組みを再構築するために千葉県連盟として「考え方・役割等」を新たなマニュアルで示す必要がある。

「その他」

6. 実際の事例を経験して、本マニュアルの問題点はどこにあると思いますか。

「災害教育」について（記述式で24件のご意見をいただきました。）

- ・支援側だけでなく、被災者の立場での想定も必要と思う。
- ・具体的な被災状況を資料としたプログラムがあるとよい。
- ・各団で行うことなので、そのガイドブックになるような内容を望む。
- ・マニュアルが休眠状態と思われる。内容もよく知りませんが、支援要員任せになっているように思います。
- ・指導者側の考えが大きく、スカウトたちの考えが活かされているとは言い難い面があった。
- ・各部門の進歩・進級課目に防災・災害対策に関する課目は含まれており、各隊長はこの課目の修得のためにスカウトに個別的な指導を行う
- ・「災害教育」をどのように行なうのか？発達段階に応じた教育指針、テーマなど、教育面の充実を図る必要がある。そのためにはコミッショナーグループの関与を明確にし、県連盟コミッショナーの方針を受けて、地区コミッショナーグループがラウンドテーブル等でプログラムの研究、評価等を行い、教育システムに組み込む。
- ・日頃の野外活動の原点をしっかりと身につけておくことが必要だ。
- ・各部門ごとに、県レベルで検討する事項がマニュアルに記載されているが、現時点の最新に改定し、周知をお願いします。
- ・スカウト向け、リーダー向けの災害教育教本があれば好ましい。

「災害支援」について（記述式で35件のご意見をいただきました。）

- ・ボーイスカウトとして期待される「支援体制」は何処に焦点を合わせるのか、明確にする必要がある。それによって教育内容も変わってくる。単なるイベントで終わらないようにしたい。
- ・実際に災害が発生してみると、まず、自分の家族や親戚、会社のことが優先され、実際に現地へ出向いて支援することは非常に難しいことがわかりました。募金活動など、自分のできる範囲で身近にできることから始めるしかないのではと思います。
- ・誰でもできる支援と、アダルトでないとできない支援をはっきり区別して要請して欲しい。
- ・マニュアルがあるのが、問題といえる。自然発生的に奉仕をする人間を育てるのが、ボーイスカウトである。対応で教える、実践に勝るものはない。まずは自分を守る、それから他に奉仕をする。
- ・災害支援には、色々な角度からの見直しは必要と考えますが、現実的対応は、普段から実践的講座（講習、講義？）を出来るだけ多くの関係者が受け、災害があった場合には、関係者であれば支援できる人、全てを対象にして行動する事だと思います。但し、そのための組織化は必要ですが、我が組織の皆さんはお手のものではないでしょうか。必要な事は、役職上等セクショナリズムではなく、決めた事をお互いが連携を取りつつ相互扶助を実践することに尽きると思います。この組織は官僚的に近いような様相を生じているように見受けられますが、うがった見方でしょうか。
- ・全体的に一言で言うと、情報の共有化が不足、スカウトのためと言いながら、実際は大人の活動になっていないかと我が身を含め振返っているところ です。
- ・現状にあっていない。すでに国内の大災害での支援体制が出来ているので、その体制に従うマニュアルが必要だと思う。
- ・他県へ派遣する支援だけでなく、県内での支援体制、特に被災地で現地の地区や団が中心となる体制作りが必要だと思う。
- ・現在の災害支援要員の登録や役務は廃止し、実際にその時点で現地に災害支援にいける人が支援に参加しやすい体制作りと連絡網づくりが必要だと思う。
- ・新任の団委員長のため、どこに「本マニュアル」が存在するのか、現時点、把握できていません。出来れば、県連のホームページへ掲載して、たれでもが閲覧できるようにして頂きたい。
- ・実際に災害が起きたら自分自身や家族の事で精一杯で、人々を支援でききるようになるには、かなり後になると思います。